

年頭のごあいさつ

黒潮町長 松本敏郎



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、3年におよぶコロナ禍に加え、ロシアのウクライナ侵攻という暴挙が、国際秩序の混乱を招き、原油・物価の高騰が、私たちの生活を直撃する大変厳しい年となりました。

このような状況をふまえて、本町では、「商工事業者等経営支援事業」「農業者経営支援事業」「漁船用燃油高騰緊急対策事業」「物価高騰対策商品券交付事業」「観光誘客事業」などの対策事業を実施してきたところでございます。

また、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種につきましても、現在オミクロン株対応の

ワクチンの接種を、3月末をめぐりに実施しているところであります。

次々と変異を続ける新型コロナウイルス感染症は、残念ながら完全に無くすことは困難だと思いますが、引き続き公衆衛生施策の質を高め、感染症の予防を図りながら「ウィズコロナ」の方針で、経済活動・社会活動を立て直してまいりたいと考えています。

一方で、大変嬉しいこともありました。高知県立大方高等学校が「令和4年度安全功労者内閣総理大臣賞」と「第8回ジャパン・レジリエンス・アワード(強化大賞)準グランプリ」を立て続けに受賞したことです。生徒たちが、災害時の犠牲者ゼロを達成する目的のもとに、避難行動で率先避難者となり、避難所運営の支援者として活躍することができるように、地域住民を巻き込み、継続的に取り組んできたことが、「強靱な国づくり、地域づくり、人づくりに資する活動」として、高く評価されたのです。

激甚化する自然災害、そして、近い将来に高い確率で発生するといわれる南海トラフ地震に備え、町民総ぐるみで防災活動に取り組んでいる本町にとって、このような地元高校生活躍は

大変頼もしい限りです。

さて、令和の時代も5年目を迎えました。混沌とした国際情勢の中、時代は百年に一度といわれる大きな変革期にあります。世界の各地で戦争や地域紛争が絶えないなか、地球規模での環境変化は人間にとって不都合な方向で進んでいます。一昨年、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は「人間活動によって地球温暖化が進んでいることについて、疑う余地はない」と公表いたしました。脱二酸化炭素に向けた具体的な取組は、もはや他人ごとではありません。

本町も「黒潮町地球温暖化実行計画(区域施策編)」を策定し、我がこととして取り組んでまいります。

また、デジタルを利用して人々の生活をより良いものに変革するDX(デジタルトランスフォーメーション)は、少子高齢化、働き手不足、過疎化などのさまざまな課題を抱える本町にとっても必要不可欠な取組となってきました。そこで、今年度は、民間企業からCIO補佐官(情報化統括責任者補佐官)を招致して「デジタル推進係」を新設しました。新しい時代を見すえ、一層の住民サービスの向上をめざすために「黒潮町デジタル化

推進計画」を策定し取り組んでまいります。

ところで、昨年、町内の高校生から40代までの若者で「企業版ふるさと納税で応援したくなる町」をテーマにワークショップをしました。本町のアドバイザーであるデズイナー・梅原真氏も参加するなかで決定したのが次の言葉です。

「空想をカタチにする町」

「こうなればいいのになあ…」という自由な発想を大切にすることが使っているスマートフォンは、ステイブ・ジョブズという人の妄想から始まったともいわれますが、新しい年を迎え、皆様の描く夢が、少しでもカタチになるような町づくりを進めてまいります。

結びにあたり、住民の皆様におかれましては寒さ厳しい折、くれぐれもご自愛いただき、町政発展のため、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今年一年が皆様にとりまして平穏で幸せな一年となりますことを祈念し、新年のごあいさつとさせていただきます。